

## 千葉県支部

### 農業における農法と販売に関する調査研究

千葉県は国内トップクラスの農業産出県で、農産物の種類も多種多様であり、その生産形態および流通形態も千差万別である。千葉県支部では、平成 23 年度「調査・研究事業」として「農業における農法と販売に関する調査研究」を実施した。13 か所の農業事業者ならびに農業関連事業者を訪問調査した。いずれも特徴ある経営で、良好な収益をあげ消費者の支持を集めている。視察先の特徴をそれぞれ 4 つのグループに類型化して、その経営コンセプトを明確にした。

#### 1. 専門農法特化型

(1) 不耕起で収穫する農家、(2) 有機農法の農家、(3) 自然農法と慣行農法の両方に取り組む農家等、固有の農法による作物で、特定の消費者の支持を集めているグループ。

#### 2. 専門作物特化型

(4) スイカに特化する農家、(5) 都市近郊の大規模農場を営む農家、(6) えだまめのオーナー制度に取り組む農家等、特定作物に専門特化して、品質や収穫効率を高めているグループ。

#### 3. 他産業連携型多角経営

(7) 地産地消の販売事業者、(8) 自然農法による生産物の販売、卸、宅配事業を営む事業者、(9) JA 直売所、(10) 他産業と提携して観光農園を営む農家等、販売業やサービス業、農協などと連携して経営を行っている農業事業者、連携先となる事業者のグループ。

#### 4. 流通経路完結型多角経営

(11) 米の生産、および加工を行っている農家、(12) 他産業から参入しオリジナル商品を持つ農業生産法人、(13) 慣行農法(通常農法)による 100%庭先出荷を実現した農家等、流通経路完結型多角経営独自の販売ルートを確認し、特徴ある作物を耕作あるいは加工を行っているグループ。

以上、製造方法としての各種農法の特徴を調査、販売方法として販売ルートの調査、6 次産業化の観点から加工を取り入れた販売ルートの調査を通し、それぞれ経営方法が異なる環境で活動している、事業者の実態を生々の声を通して調査し、報告書にまとめた。

本報告書が、中小企業診断士をはじめ、就農業者、食品関連事業者、農商工連携関連事業者等の事業活発化のヒントになれば幸いである。